

# 福祉についての関心を高め，主体的にかかわる力を育てる 総合的な学習の時間の研究

- 共に学び合い，高め合うことのできる場づくりの工夫を通して -

伊万里市立南波多小学校 教諭 横岳 一清

## 要 旨

本研究は，総合的な学習の時間において，高齢者福祉に目を向けた課題づくりや追究活動などを行うことで，児童に相手の気持ちを理解し，共に生きようとする心情をはぐくむとともに，自分にできることを実践していこうとする態度の育成を目指したものである。単元全体を通して，他者とのかかわりを基にした活動の場を設定していき，児童に切実感のある課題をつかませ，追究活動への意欲を高めていくための手立ての工夫を行った。その結果，児童に相手意識をもったかかわりが見られ，自己の生き方を考えようとする態度を育成することができた。

<キーワード> 総合的な学習の時間 他者とのかかわり 切実感のある課題 自己の生き方

### 1 主題設定の理由

福祉教育は，誰もが人としてよりよく幸せに生きるにはどうしたらよいかに気付かせ，自己の生き方を考えさせるものである。対人関係の希薄化から，社会的弱者に対する思いやりの欠如などの問題が見られる今日では，福祉教育を充実させることは，ことさら重要である。本学級の児童の住む地域には，たくさん的高齢者が住んでいるが，そのような実態を意識し，その中に価値を見出すような機会も少なくなっている。このことから，子どもたちにとって，「共に生きる」ことについて考える福祉教育は大変意義深いことである。

福祉教育では，一人一人が相手意識をもち，切実感のある課題を設定することが重要である。体験活動や交流活動での学びを，児童にとって意味のある課題解決活動へと発展させていくため，課題をつくるまでの段階で十分な時間を掛け，問題意識の醸成を行っていく。また，学習の各段階で，「対象と深くかかわっていく場」「意見交流の場」「自己の活動の振り返りの場」といった，他者とのかかわりを中心に据えた場を設定していく。それにより，高齢者と共に生きようとする心情をはぐくんでいくとともに，自分にできることを行動に移していこうという実践意欲につなげていきたいと考え，本主題を設定した。

### 2 研究の目標

福祉についての関心を高め，主体的にかかわろうとする子どもを育てるために，「場づくり」を工夫した総合的な学習の時間の在り方を研究する。

### 3 研究の仮説

福祉についての学習過程において，他者とのかかわりを重視した場の工夫をすれば，切実感のある課題が生まれ，共に生きようとする心や自分にできることを行動に移していこうという実践態度を育てることができるであろう。

### 4 研究の内容と方法

文献等を基にした本研究に関連する理論研究

児童の実態を知るためのアンケート調査と結果の分析  
 他者とかかわる場を効果的に取り入れた単元開発と評価規準の作成  
 検証授業の実施と児童の変容を基にした研究仮説の有効性の検証

## 5 研究の実際

### (1) 研究の全体構想

本研究では、学習の各段階で、他者とかかわりを重視した場として、「対象と深くかかわっていく場」「意見交流の場」「自己の活動の振り返りの場」を設定する。それにより切実感のある課題が生まれ、相手意識をもちながら、自分にできることを行動に移していこうという活動意欲につながっていくと考えた。(図1)

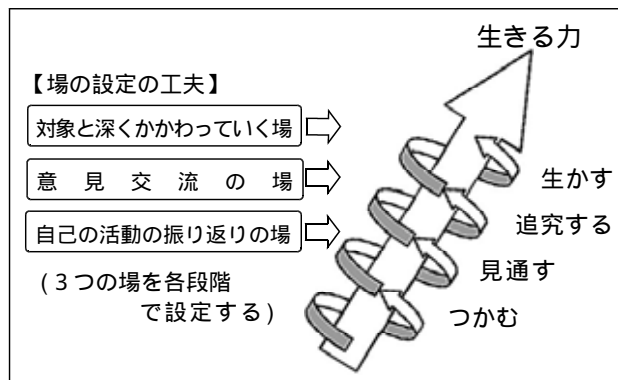


図1 研究の全体構想図

### (2) 授業の計画

ア 単元名 第5学年「つくろう！おじいちゃん、おばあちゃんがもっと楽しくなる南波多」

イ 単元の目標

高齢者に対する思いやりの心や共に生きようとする心をはぐくむとともに、自分にできることを行動に移していこうという実践態度を育てる。

ウ 指導計画の概要(全52時間)

段階	時数	主な学習内容
つかむ	23	本・インターネットによる調べ活動を行う。 ゲストティーチャーの話を聞く。 高齢者疑似体験を行う。 高齢者との交流活動を行う。
見通す	5	ウェビングを行い課題を決定する。 課題追究のための計画を立てる。
追究する	19	課題解決へ向けての追究活動を行う。 追究内容・方法見直しのための中間報告会を行う。 「おじいちゃん、おばあちゃんのための、健康・安全・わくわく南波多教室」を開く。
生かす	5	ポートフォリオを基にした単元の振り返りを行う。 凝縮ポートフォリオを作成する。

### (3) 授業の実際

ア 切実感のある課題づくりのための対象と深くかかわっていく場の設定

高齢者の生活や生き方に目を向けた、切実感のある課題をつかませるためには、体験活動や交流活動を通して、高齢者に対しての理解を深めるとともに、児童の思いや願いを十分に高めることが必要である。この段階での思いや願いの高まり、問題意識の醸成が、勢いのある追究活動と追究意欲の持続につながっていく。そこで、「つかむ」段階での活動に単元全体の約半分に当たる時数を設定し、活動の充実を図った(表1)。

表1 つかむ段階での学習の流れと児童の意識

活動内容	授業後の感想	高齢者に対する意識
1 60年後の自分の姿を想像する	腰が曲がってくる、しわが増える、きついことが増える、年は取りたくない	・社会的弱者 ・支えるべき存在
2 本やインターネットを利用した調べ活動を行う	高齢化社会が進んでいる、体の特徴が分かった、高齢者のための商品もいろいろあるぞ	・できることをしてあげたい



### 資料1 児童が設定した課題

- ・ おじいちゃん、おばあちゃんのために、いろいろな病気になりにくい方法を書いたパンフレットを作る。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんももっと安全に暮らせるように、危険な場所を教える看板と安全ブックを作る。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんが楽になる、健康運動ビデオを作る。
- ・ もっと仲良くなるために、ビデオカメラでお年寄りのよいところや、得意なことを撮り、みんなに伝える。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんのために、楽しく遊べるものを作って、老人会にプレゼントする。

#### イ 追究内容・方法の見直しのための意見交流の場の設定

課題追究活動を通して、児童は様々な学びを獲得していく。しかし、活動が個別化・グループ化するに伴い、次第に自分たち独自の活動内容となっていく。そのため、狭い視野での活動となってしまうたり、活動が停滞してしまったりすることが考えられる。そこで、「学びの共有化」を行い、共に学び合おうとする態度を育てることで、活動を様々な角度から見つめ、よりよいものに高めていこうとする意識をもたせるようにした。そのための手立てとして、中間報告会を行い、各グループ間の活動内容や進捗状況の確認、自分の活動の問題点の把握、参考になる意見や情報の収集を行った。中間報告会を行うに当たり、何のために行うのかというしっかりとした目的意識をもたせ、活発な意見交流の場となるように、以下のような方法を取った。

#### 資料2 付箋の内容と色

- ・ いい活動だね。よく工夫しているね。 ...青
- ・ いいアイデアや情報があるよ。 ...黄
- ・ これはどうかな。もう一度考えてみて。 ...赤

#### (ア) 中間報告会前の活動チェック

活動報告用のフリップを事前に掲示し、各グループの報告内容を知らせた。そのフリップに3色の付箋を貼ることで、他のグループの内容をチェックさせた(資料2、写真4)。これにより、報告内容に真剣に目を通し、それに対しての自分の意見をもとうという意欲が見られた。意見やアドバイスを考える時間も十分にあり、中間報告会当日は、よく考えた発言が多かった。それらのアドバイスにより、自分たちの活動をしっかりと見つめ、更に工夫を加えた内容に修正することができた(資料3)。

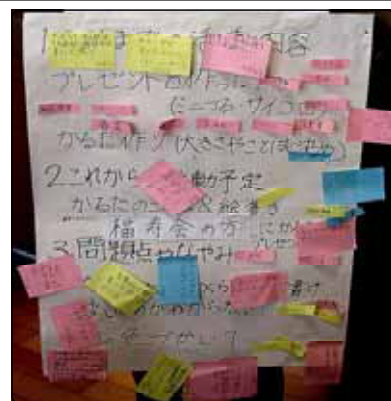


写真4 付箋の活用

#### 資料3 「危険な場所を教える看板と安全ブック作り」グループの報告内容と修正

報告内容	意見やアドバイス	活動の修正
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで、学校周辺の地域を回り、危険な場所をチェックした。</li> <li>・ 本に書く内容を細かく決めた。</li> <li>・ 町内全部を回る時間がないのが悩み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本は持ち運びに不自由ではないか。</li> <li>・ 看板を立てるためには許可が必要。</li> <li>・ 活動を2つするのは難しいのでは。</li> <li>・ お年寄りがよく行く場所に地図を貼ってみては。</li> <li>・ 公民館に町全体の地図があるよ。</li> <li>・ 学級でアンケートを取ってみては。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本をカードに変える。持ち運びが楽だし、たくさんの人が使える。</li> <li>・ 看板を立てるのはやめる。その代わりに、安全マップを作り、公民館や道の駅に貼ってもらう。</li> <li>・ 危険と思う場所の図と説明を書いてもらうアンケートを保護者に配る。</li> </ul>

#### (イ) 中間報告会への地域の方の参加

4名のゲストティーチャー(老人会会長、児童祖母、社会福祉協議会職員、高齢者介護施設職員)に参加いただいた。それぞれ違った視点からの意見やアドバイスがあり、児童が気付かなかった点についても多くの指摘があった。高齢者や福祉の仕事に携わっている人の意見を直接聞くことにより、高齢者の嗜好や生活習慣、願いなどにもっと目を向ける必要があるということに気付き、高齢者のことをより意識した内容に修正することができた(写真5、資料4)。



写真5 報告会の様子

#### 資料4 中間報告会後の感想より

- ・ お年寄りには、うす味で、お肉よりも魚類の方がいいと、さん(高齢者)がいていねいに教えてくれました。この2つの意見のおかげで、パンフレットの内容をはっきり決められました。
- ・ さんが腰痛体操のことでいろいろ教えてくれました。お年寄りは腰痛が多いので、本の内容にぜひ入れてほしいというアドバイスがあり、内容に入れることにしました。

多くの参考になる意見やアドバイスにより、今後の活動をより良くするための修正ができた、ほとんどの

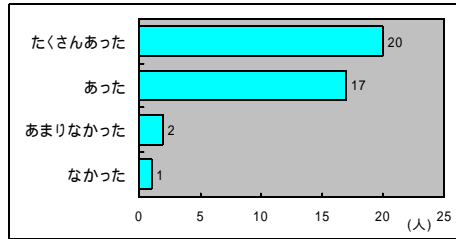


図4 参考になる意見やアドバイスがあったか

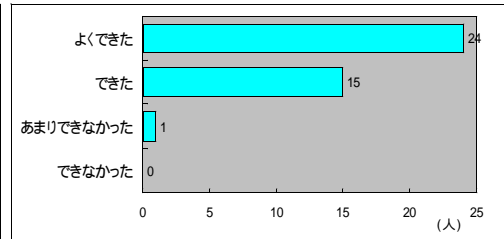


図5 活動内容や方法の見直しができたか

児童が考えている(図4・5)。このことから、中間報告会が大変有効であったと言える。

ウ 高齢者への提案

地域の公民館を借り「おじいちゃん、おばあちゃんのための、健康・安全・わくわく、南波多教室」を開催した。児童から、たくさんの人に伝えるために公民館を使いたいという提案があり、今回のような形となった。この南波多教室が、ただの発表会の場ではなく、高齢者と触れ合いながら共に勉強していく場となるように、必ず何らかの形で高齢者にも参加してもらうようにした。それにより、自分の活動の価値の自覚へとつなげることができた(写真6、資料5)。



写真6 提案の様子

資料5 南波多教室後の児童の感想より

- ・ 健康本が3冊ともなくなるぐらいみんなが読んでくれたので、「作ってよかったな」と改めて思いました。これからはお年寄りが増えていくので、どんどん使ってもらい、南波多町を元気な町にしたいと思います。
- ・ ぼくたちのめあては「お年寄りがかかるたをして、笑顔がたくさんふえる」でした。実際にかるたをしてもらってうれしかったです。かるたをしてる人もしてない人も笑ってくれたから、うれしかったです。
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんが、運動をして気持ちがいいと言ってくれたので、良かったです。うれしかったです。お年よりは、やさしくて、自分のおじいちゃん、おばあちゃんみたいでした。

エ 自己の活動の振り返り

活動の振り返りは、「時間ごと」「学習過程ごと」「単元全体」で行い、振り返りカードでの自己評価に加え、他者評価や相互評価による振り返りを行った。その手立ての一つとして、「ポートフォリオ通信(なんなん通信)」の作成を行った(図6)。ポートフォリオを基に活動を振り返り、活動内容や気付き、自分の考え、気持ちなどをまとめた。個人通信、グループ通信、学級通信、保護者通信、高齢者通信(保護者・高齢者通信に関しては、教師が意見を集約して作成)と、場面に応じて様々な形式で作成し、付箋を利用することで、短時間で作り上げることができた。この「ポートフォリオ通信」と「振り返りカード」を併せて活用することで、活動を振り返ると同時に、活動への意欲や自信を高めることができた。公民館での提案後は、高齢者の感動の声、児童の成長を喜ぶ保護者の声を通信としてまとめ、それを利用しながら、振り返り活動を行った。それにより、児童に活動の喜びと意味を改めて感じさせることができ、自己の生き方を考えさせるのに有効であった。

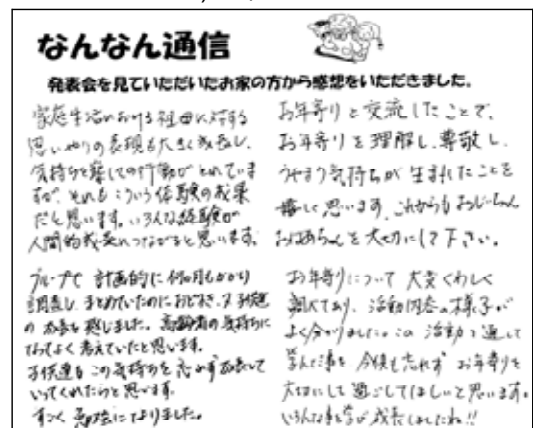


図6 保護者からの通信(一部拡大)

(4) 単元を通しての児童の変容と考察

単元前の意識調査を見ると、地域の高齢者と話してみたいという児童は38%しかいなく、高齢者に対しての児童の関心が低かったことが分かる(次頁図7)。しかし、単元後には、98%の児童が話してみたいという考えに変化し、関心の高まりが見られた。また、自分のこれからの行動について、「身近なところから」、「生活の中のできることから」、高齢者のために何かやっていきたいという意識が見られた(次頁資料6)。高齢者に対する児童の意識の変化が、活動の日常化へとつながっていったと考える。

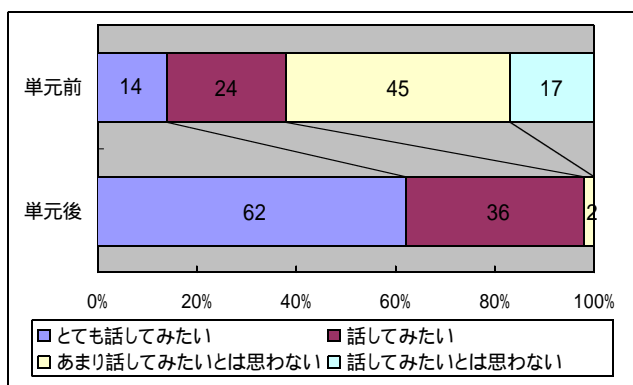


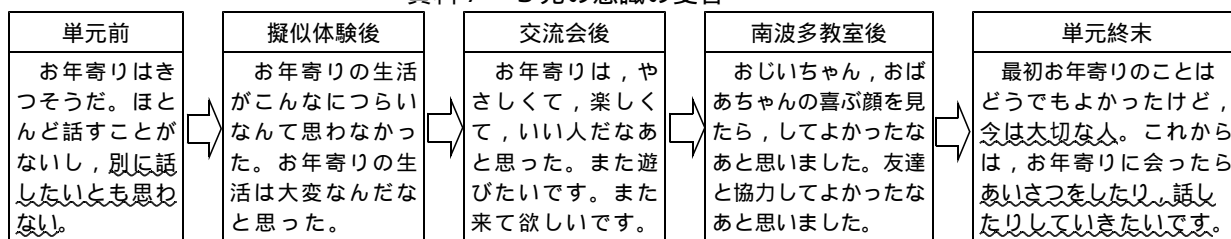
図7 地域の高齢者と話してみたいか

### 資料6 自己の成長の振り返り

- ・ この活動をして、この頃よくおじいちゃんと話せるようになりました。自分がちょっとやさしくなったような気がします。
- ・ 私は今まで、町で困っているお年寄りに声を掛けられずに、そのまま見なかったふりをして通り過ぎていました。でもこれからは、はずかしがらずに声を掛けて、助けあげられるようになりたいと思いました。
- ・ 町で会ったら大きな声であいさつしたり、交流会の話をしたり、とにかくまだまだずっとふれあっていきたいです。
- ・ これからも、お年寄りのために、自分にできることは何でもしていきたいです。だって、お年寄りがいたからこそ、今の自分がいるからです。お年寄りには感謝していきたいです。

抽出児としてS児の変容を追った。S児は、人との交流がやや苦手で、地域の高齢者と話す機会はほとんどないと考えていた。しかし、自分の課題をしっかりともてるように、「つかむ」段階に十分に時間を掛け、活動の各場面で交流を繰り返していったことで、徐々に変容が見られてきた。「お年寄りのことはどうでもいい」と考えていたS児が、終末段階では、「今は大切な人」という考えをもつようになった。高齢者との距離が縮まり、自分から働き掛けたいという気持ちの高まりが見られた(資料7)。

### 資料7 S児の意識の変容



## 6 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

本研究では、「つかむ」段階に十分な時間を掛け、問題意識の醸成を行った。体験活動後、繰り返し高齢者との交流を行っていくことで、高齢者がある一方向からだけ見るのではなく、様々な考えや思いを重ねた多方向から見つめることができた。これにより、高齢者の生活や生き方に目を向けた、切実感のある課題の設定ができたと言える。学習を進めて行くに当たり、すべての段階で、友達や保護者、高齢者、ゲストティーチャーといった他者とのかかわりの場を設定した。共に学び合う場や評価を受ける場を設定したことで、自己の活動を吟味し、更に高齢者に喜んでもらえるものに高めていこうという意欲が見られた。また、他者とのかかわりを通して、自分の活動を客観的に見つめることで、活動の価値を見出し、自己の成長に気付くことができた。

以上のような手立てを取ることで、高齢者と共に生きようとする心、自分にできることを実践していこうとする態度が育ってきたと言える。

### (2) 今後の課題

- ア 各教科との関連を明確にしたカリキュラム作成
- イ 地域との連携をより深めていくための方法の検討

### 《参考文献》

- ・ 加藤幸次・生野桂子編著 『福祉・健康教育をめざした総合学習』 1999年 黎明書房
- ・ 北 俊夫編 『「総合的な学習」の課題づくり』 2001年 明治図書